

運動離れ・体育嫌いを改善するために

石角 政訓 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：体力低下，学校体育，場の設定

1. 緒言

子どもの体力・運動能力は，昭和 60 年ごろから現在まで低下傾向が続いており，さらに運動をする子どもとしない子どもの二極化の傾向がある。

保健体育教師を目指している者として，運動離れや体育嫌いといった問題は非常に悲しいことである。その問題を少しでも改善していきたいと考えている。

また，現場の教員が運動離れや体育嫌いに対して，どのような工夫をしているのかに興味を持った。

そこで本研究では，児童の運動や体育授業についての意識調査をすることで，運動離れ・体育嫌いに繋がる原因を明らかにし，その結果を基に，改善方法を提示することを目的とする。

2. 研究方法

本研究の調査対象は，京都府，滋賀県，大阪府の小学校 3 校の生徒 84 名（男子 45 名，女子 39 名），教員 28 名である。

教員のアンケートにおいては，運動離れや体育嫌いを改善するために行っている改善方法や学校全体で取り組んでいる改善方法を記述式で調査した。児童用アンケートでは，運動や体育授業について選択式で意識調査を行った。

3. 結果と考察

調査結果から，運動が好き・嫌いな理由と体育が好き・嫌いな理由が明らかになった。

児童が運動を嫌いな理由として，「疲れる」「運動が上手くできない」が挙げられた。

体育が嫌いな理由として，「運動ができないことが恥ずかしい」「先生に怒られる」が挙げられた。共通している理由は，「運動が上手くできないこと」である。

このことから，運動を「楽しい」ものだと感じさせることや，運動が「できる」ようになる指導方法の工夫が必要であること

が明らかとなった。

嫌いな運動種目では，「長距離走」と「鉄棒」が大半を占めた。長距離走が嫌いな理由として，運動が嫌いな理由の「疲れる」が原因だと考える。鉄棒や跳び箱などの器械運動では，恐怖心を感じている児童が多い。そのため，安全に行えるような「場の設定」をすることが必要である。

教員が行っている改善方法で多かった回答は，「スモールステップ」である。児童のどんな小さな成長も見逃さず，褒めることで，児童に自信をもたせることができる。

また環境面では，「友達と活動できる場づくり」が重要である。体育の好きな理由で上位に挙げられた「友達と一緒にできる」のように，児童にとっては，友達と運動ができることは重要であるようだ。

学校全体の取り組みとして，「教材研究」「運動行事の企画」が挙げられた。

4. まとめ

この卒業研究では運動や体育が嫌いな・苦手な児童に着目した。しかし，体育授業において苦手な児童に合わせることも大切だが，運動が得意な児童に対してのフォローも必要である。そうしないと運動が得意な児童にとっては，運動の難易度が低く，物足りないと感じる体育授業になる可能性がある。

体育授業において，すべての児童が楽しめる場を設定することが重要である。運動が嫌い・苦手な児童にばかり意識を持っていても，それ以外の児童達が体育授業に不快感を抱く可能性もある。教師は，広い視野を持ち，体育授業を運営していく必要がある。

引用・参考文献

文部科学省（2002）：中央教育審議会答申「子どもの体力向上のための総合的な方策について」，pp.1-2.